# 23［評論］　『日本の狂気誌』

　『日本記』や『今昔物語』には古代・中世の①犯罪現象がもっぱら説話の形で記載されているが、しかし江戸時代における犯罪を研究しようとした場合には、すでに資料の質からしてちがいがある。すなわち、徳川幕府は『例類集』あるいは『百箇条調書』など実際の、貴重な裁判記録を残し、これを明治政府に引き継いだ。そのほか各藩、奉行所の裁判記録も残っている。さらに、これらを補うものとして、同時代の犯罪をテーマにした戯曲、小説、説話の類もある。なかでも、、のようなリアリスト作品のなかには、かなり立ち入った犯罪心理の分析さえみられる。 ［　　Ａ　　］近松（一六五三～一七二四）による『』は、犯罪心理、それも比較的平凡な犯罪者による平凡な犯罪の心理を追求した点で、世界文学史上、すくなくともその時点までは類例の少ないものなのである。

　このドラマの主人公であるは、ａ放蕩の挙句、ｂ借財の返済を迫られ、彼に同情を示してくれた同業者の若妻に借金を申しこみ、拒絶されてこれを殺害する。近松は、②この与兵衛の性格および背景を、おそるべき洞察力によって、近代の犯罪学が描き出す青少年犯罪の典型例にみごとに重なりあうような形で描写した。

　彼の場合、実父の幼時における死亡（欠損家庭）、実母が再婚した結果、継父となった元番頭のが彼に対して罪悪感をもち、父親として対さず（父親像の不在）、母親の甘やかしの結果、まったく超自我の形成を欠いた、衝動的で弱志的な性格が形成されている。彼の対人的な態度は虫のよい甘えと、それと裏腹の反抗であり、自己の欲動をｃ制御することができないため、ｄタンラク的に行動し、その結果窮地に追いこまれると、見境ない噓をつくのである。

　彼は不用意に受容的な態度を示した油屋の若い妻に、「甘え」にもとづくｅリフジンな要求（夫に内緒の借財）を申しこみ、拒絶される。この場合、幼時からの、甘えの対象となっている人間が彼の甘えを受け入れないとき、見境なく攻撃的となるという行動パターンが反復され、油屋の若妻は惨殺される。

　この『女殺油地獄』がわれわれに教えるところは、元禄期の町人社会には、すでにこの程度には青少年の「［　　Ｂ　　］」を許容する基盤があったらしいことであり、与兵衛の継父の場合、旧主人に対する封建的な主従道徳観をもっていながら、自分の義理の息子に対してはタテマエ上の父として振舞えないという、③まるで現代の昭和一ケタ族のような行動パターンを示していることである。

　が指摘する日本人の心性の特徴である「甘え」が、個人の病理の中に明瞭に登場する具体的事例は、筆者の知る限りでは、実はこの与兵衛のケースがもっとも古いのである。おそらく江戸時代の町人社会の形成が、日本人の犯罪類型や精神病理を、日本的近代型に変化させる大きな力になったと思われる。

●語注

西鶴＝西鶴。江戸前期の浮世草子作者。『好色一代男』が有名。

土居健郎＝精神医学者。日本人の精神分析に「甘えの構造」概念を導入。

問１　二重傍線部ａ～ｅの漢字は読みを記し、カタカナは漢字に直せ。2点×5

ａ〔　　　　　〕　ｂ〔　　　　　〕　ｃ〔　　　　　〕　ｄ〔　　　　　〕　ｅ〔　　　　　〕

問２　傍線部①の「犯罪現象」と対照的に使われている語句を本文中から抜き出して答えよ。7点

〔　　　　　　　　　　　　〕

問３　空欄Ａに入る最も適当な語句を次から選べ。5点

ア　やはり　　　イ　とりわけ　　ウ　だから

エ　いかにも　　オ　なお

〔　　　〕

問４　傍線部②とはどのような性格か。本文中から二五字以内で抜き出して答えよ。7点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問５　空欄Ｂに入る最も適当な語句を次の中から選べ。6点

ア　甘えと犯罪　　イ　受容と攻撃

ウ　甘えと攻撃　　エ　受容と要求　　オ　甘えと要求

〔　　　〕

問６　傍線部③とはどのようなことか。本文中の語句を用いて、答えよ。7点

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問７　本文の趣旨と合致しないものを次から一つ選べ。8点

ア　江戸時代には犯罪をテーマにした戯曲、小説、逸話の類もあるが、なかでも西鶴や近松の作品のなかには犯罪心理の分析が見られる。

イ　近松門左衛門の『女殺油地獄』は犯罪心理を追求した点で、その時点までは、世界文学史上、類例の少ないものである。

ウ　『女殺油地獄』の与兵衛の虫のよい甘えと攻撃による若妻惨殺は、父親がいないことと母親の甘やかしによるものである。

エ　江戸時代の町人社会の形成が、日本人の犯罪類型や精神病理を日本的近代型に変える大きな力になったのではないか。

オ　『女殺油地獄』の与兵衛のような犯罪は、土居健郎が指摘する日本人の「甘え」が個人の病理の中に明瞭に登場する具体例である。

〔　　　〕

【解答】

問１　ａほうとう　ｂしゃくざい　ｃせいぎょ　ｄ短絡　ｅ理不尽

問２　犯罪心理

問３　イ

問４　まったく超自我の形成を欠いた、衝動的で弱志的な性格（25字）

問５　ウ

問６　封建的な父子関係で育ちながら、自分の息子にはそういう父親として対さないこと。

問７　ウ

■覚えておきたい語句

□1　記載……………………書いて載せること。

□7　平凡……………………特に優れたことがない。ごく普通。〔類〕凡庸。〔反〕非凡

□9　返済……………………借りた金品を返すこと。

□11　典型……………………その特徴や性質をよく表しているもの。

□12　継父……………………母の夫で、血のつながりのない父。〔反〕実父

□13　罪悪感…………………悪い行いをしたという意識。

□13　超自我…………………精神分析の用語。良心・罪悪感に相当するもの。

□15　短絡的…………………よく考えず、原因と結果を単純に結びつけること。

□17　理不尽…………………道理に合わない、無理なこと。〔類〕不合理

〔要　約〕

結論である［6］段落と、結論に至る説明の中心段落・中心文である［2］段落の第［２］文を使って要約文をつくるとよい。

　　　　↓

近松門左衛門の『女殺油地獄』は、近代の犯罪学が描き出す青少年犯罪の典型例にみごとに重なりあうように描写されている。それは土居健郎が指摘する日本人の「甘え」が、個人の病理の中に登場する最も古い例である。（100字）

〈筆者＆出典〉小田　晋（おだ・すすむ）一九三三年（昭和8）～二〇一三年（平成25）大阪府生まれ。岡山大学医学部卒業。東京医科歯科大学大学院博士課程修了。神経精神医学専攻。医学博士。犯罪心理学の権威として、羽田沖日航機墜落事故など多くの事故・事件の精神分析を担当した。著書に、『狂気の構造』『権力者の心理学』『宗教と犯罪』など多数。本文は、『日本の狂気誌』（講談社学術文庫、一九九八年）より。

【読みのセオリー】

★段落・文関係を読み取る

　評論文の場合、「語句補充」のような設問であっても論理展開に関係するから、まず文章の段落相互の関係（論理関係）を把握することが基本になる。

　段落相互の関係を中心文や中心語をおさえながら把握する。接続語も段落関係の目安になる。

■読みのセオリー［実践］段落・文関係を読み取る

問５　2・3・4・5段落の関係はどうなっているか？

2　「与兵衛の性格および背景」

　　　↑　説明

3　「性格・背景」形成の説明

虫のよい［１　　　］と［２　　　］

4　［３　　　］と［４　　　］による若妻殺害

　　　↓　考察（まとめ）

5　この『女殺油地獄』がわれわれに教えるところ……

　　この程度には……

　・青少年犯罪行動パターン

　 ［５　　　］と［６　　　］

　・父親の行動パターンの成立

＊「この」は前の段落を受けていることを示している。

〔解答〕　１甘え　２反抗　３甘え　４攻撃　５甘え　６攻撃

☆「セオラム補充問題」　問題は、次の３種類があります。

　　＊差し替え　　　……該当の問と差し替えるもの

　　＊追加　　　　　……同じ問で、追加された問題

　　＊新問　　　　　……追加可能な新たな問題

＊新問

問　筆者は7行目「平凡な犯罪の心理」と述べているが、平凡な犯罪心理とは、どんなことか。その説明として最もふさわしい箇所を本文中から二〇字以内で抜き出せ。

［答］　日本人の心性の特徴である「甘え」

＊新問

問　18行目「幼時からの、甘えの対象になっている人間」、とあるが、それは誰か。本文中から抜き出して答えよ。

［答］　実母（母親）

＊差し替え

問６　本文の内容と合致するものを次から一つ選べ。

ア　「女殺油地獄」の主人公の与兵衛が油屋の若妻の殺害に及んだのは、与兵衛に実父がいないため、甘やかされて育ったことが原因である。

イ　「女殺油地獄」は、比較的平凡な犯罪者による平凡な犯罪の心理を追求した点で、日本文学史上、すくなくともその時点までは類例がない。

ウ　江戸時代には犯罪をテーマにした戯曲、小説、説話の類があるが、これは、これは中世の説話に記載された犯罪と質的にほぼ同じである。

エ　「女殺油地獄」の主人公の与兵衛の犯罪は、筆者の知る限りでは土居健郎が指摘する日本人の心性の特徴である「甘え」が明瞭に見られる最も古い事例である。

オ　日本人の犯罪類型や精神病理の日本的近代型への変化は、江戸時代の上方町人文化の形成が大きな力になったと思われる。

［答］　エ